
隔週刊「農業文化マガジン『電子耕』」 第 335 号

—環境・農業・食べ物など情報の交流誌—

2012.06.08 (金) 発行 山崎農業研究所&編集同人

<キーワード>

環境・農業・健康・食べ物などの情報提供、高齢者と若者、農村と都市の
交流ミニコミ誌。山崎農業研究所&『電子耕』編集同人が編集・発行。

<http://www.yamazaki-i.org>

*****発行部数 1149 部*****

□ 目 次 □-----

<巻頭言>

被ばく 400 日を過ぎて—忍び寄る慣れ、楽観そして打算 小泉浩郎

<イベント案内>

内山節 講演会「3・11 以降を生きる—新しい価値の創造と共有—」

(2012 年 6 月 9 日 東京都北区 赤羽エコー広場館)

<お知らせ> 山崎農業研究所所報『耕 No.127』発行されました

<編集後記> 責任という名の無責任

<巻頭言> 被ばく 400 日を過ぎて—忍び寄る慣れ、楽観そして打算

「子どもの甲状腺 二次検査対象も「おおむね良好」(東京新聞 5/1)
避難区域を含む 13 市町村に当時いた 18 歳以下の約 4 万 7 千人が対象で、その
約 8 割の 3 万 8114 人の検査を終えた。その結果甲状腺結節 1.0%、のう胞 31.5%
とし、多くのメディアも「おおむね良好」と報じた。

「体内セシウム変わらず・1 割の人、半減せず」(東京新聞 5/15)放射
性セシウム量が比較的高かった大人 110 人を南相馬市立総合病院で震災から 3 ヶ
月後に検査した。成人の場合、3~4 ヶ月で半減するといわれ、半分程度に減少
した人が大半だったが、余り減っていない人が 1 割程度いた。高齢者に多く、
家庭菜園からの可能性があるという。「大丈夫だろう」。そこには時間の経
過と共に慣れと楽観が生まれつつある。

3.11 から 400 日が過ぎた。原発事故への反省も中途半端のまま、安全・安心
へのキャンペーンが目立つ。未曾有の大事故だが、時間の経過とともに、慣れ、
楽観そして打算が忍び寄りつつある。

食品中の新基準が、この4月から一般食品で暫定500ベクレルから100ベクレルに引き下げられた。より一層の安全・安心の確保だという。加えて流通業者は、さらなる厳しい内部基準で販売戦術として算盤をはじく。

元凶の原発もこのところ怪しいうごきが出始めている。原因究明も安全対策も不明のまま、今夏の電力不足を「狼」に「大飯原発」再開の方向にある。国民みんなの節電で夏の電力不足を乗り切られては困るとする打算があるからか。

食の安全・安心も、豊かな電力による経済や生活も、もちろん大事だが、今、この時、被ばくし、色も臭いもなく、何時でるか分からない健康被害に怯えながら仕事をし、暮らしを立て、子どもを育てている多くの被災者がいる。その皆さんに思いを寄せ、その人たちにとってもっとも直接的な問題である内部被ばくに注目すべきだと思う。

冒頭の「甲状腺異常」、「セシウム内部被ばく」は、ともにその実態を正確に把握し、情報の迅速な公開、医学的な評価、必要な対策を明示的に立てることが急がれる。ちなみに上記関連項目をインターネットで検索すると、検査方法、その評価、情報開示をめぐる百家争鳴、個人中傷まで飛び交っている。打算を離れて、もっと実のある論議とし問題を社会化する必要があるように思う。

山崎農業研究所事務局長

小泉浩郎

yamazaki@yamazaki-i.org

<イベント案内>

内山 節 講演会「3・11以降を生きる—新しい価値の創造と共有—」

(2012年6月9日 東京都北区 赤羽エコー広場館)

■哲学塾東京分校 (の・ようなもの) セミナー (第12回)

内山 節 講演会 & 交流の集いのご案内

「3・11以降を生きる—新しい価値の創造と共有—」

◎日時=2012年6月9日(土) 13:00~17:00

12:30~ 受付開始

13:00～ 内山節講演会

講演終了後、交流会（休憩時間を利用しての参加者相互の交流、質疑応答を中心に自由討議。新たな出会いと発見の〈場〉にしたいです。）

◎テーマ＝「3・11以降を生きる—新しい価値の創造と共有—」

《参考文献》

内山節著『ローカリズム原論—新しい共同体をデザインする』（農文協）

内山節「哲学は未来をどう語るか—震災復興と脱原発から考える生命、自然、労働」（今年のセミナーの講演記録 農文協「季刊地域」No.7,8掲載）

◎場所＝東京都北区 赤羽エコー広場館 集会室

〒115-0045 東京都北区赤羽 1-1-38 電話 03-3908-3196

JR 京浜東北線、埼京線 赤羽駅南口 高架下 徒歩2分

（昨年と同じ場所です。）

◎会費＝1,000円（資料代、飲食代（休憩時にお抹茶席を用意）等含む。）

◎懇親会＝セミナー終了後、内山さんを囲んでの懇親会を開催します。多彩な参加者同士の交流、出会いの機会でもあります、お気軽に御参加ください。

（希望者のみ 会費 均等割り 4,000円ぐらい。）

※会場や準備の都合がございますので（定員50人程度）、参加御希望の方は、懇親会参加の有無も含めて、事前に世話人まで御連絡いただければ幸いです。

主催＝哲学塾東京分校（の・ようなもの）

世話人：石橋浩治 携帯 090-9837-8989 spacecaravan@hotmail.co.jp

長谷部恒雄 携帯 090-8944-6364 tsuneo.h@alpha.ocn.ne.jp

<お知らせ> 山崎農業研究所所報『耕 No.127』発行されました

山崎農業研究所所報『耕 No.127』が発行されました。

ご希望の方には雑誌を頒布（有料：1,000円）いたします。

yamazaki@yamazaki-i.org

までご連絡ください。

目次（抜粋）

《土と太陽と》（巻頭言）

農地の放射能汚染問題の解明◎塩沢 昌

[第 37 回研究所総会・総会記念シンポジウム]

■総会記念シンポジウム「東日本大震災と農業・農村」

(1)東日本大震災による農業インフラの被災状況◎渡邊 博

(2)福島—希望への道筋を探りながら◎戎谷徹也

(3)風評被害を乗り越える経営力を求めて

—東海 JCO からフクシマ◎照沼勝浩

[特別寄稿]

放射性物質汚染の過度な危険視が農業復興を阻む◎西尾道徳

土壌生成理論・腐植前駆物質による放射能汚染対策の

可能性について◎高味充日兎

〈連載〉畦道・赤トンボのナショナルリズム [18・最終回]

情愛のふるさと／宇根 豊

<編集後記> 責任という名の無責任

大飯原発再稼働について野田首相は「私の責任で判断」というが、この問題については「再稼働ありき」で政府はうごいている、という声ももっぱらである。とすれば、「私の責任で判断」は「私の責任で再稼働させる」と読み替えてもあながち間違いではあるまい。

東日本大震災から 1 年以上が過ぎたが、いまでも地震は多い。各地で新たな断層もつぎつぎと見つかっている。「万が一」が起こっただけで日本中を混乱に陥れるのが原発である。原発に責任をとれる人間などいないのである。責任をとれないことに対して、責任をとるといってことをすすめるのは、無責任にもほどが過ぎないか。

電力不足にそなえるため、それぞれの家庭なり企業で自衛的な対策がとられている。そこには節電もあるし、企業であれば自家発電もある、それらは言葉どおりの「責任をとる」だろう。首相の発言の軽さにはあきれはてるしかないというのは、わたしがへそ曲がり過ぎるからだろうか。

2012 年 06 月 08 日

山崎農業研究所会員・田口 均

yamazaki@yamazaki-i.org

山崎農業研究所編・発行／農山漁村文化協会発売

『自給再考—グローバリゼーションの次は何か』

(発売：2008/11 定価：1,575 円)

http://shop.ruralnet.or.jp/b_no=01_4540082955/

たくさんの書評・紹介記事をいただいています。感謝・感謝です。

◎辻信一さん (文化人類学者、ナマケモノ倶楽部世話人。明治学院大学教授)

グローバルの次は何? ~卒業するゼミ生諸君へ

<http://www.sloth.gr.jp/tsuji/library/column64.html>

◎戒谷徹也さん (大地を守る会)

ブログ：大地を守る会のエビちゃん日記 “あんしんはしんどい”

「自給率」の前に、「自給」の意味を

<http://www.daichi.or.jp/blog/ebichan/2008/12/16/>

◎吉田太郎さん (長野県農業大学校教授、執筆者)

キューバ有機農業ブログ 自給再考の本が出ました

http://pub.ne.jp/cubaorganic/?entry_id=1822182

◎関良基さん (拓殖大学政経学部)

ブログ：代替案 書評：『自給再考—グローバリゼーションの次は何か』

<http://blog.goo.ne.jp/reforestation/e/cb22650fa39384bdd22b61440fa81fa0>

◎大内正伸さん (イラストレーター・ライター)

ブログ：神流アトリエ日記 (3) 「書評『自給再考』」

<http://sun.ap.teacup.com/applet/tamarin/20081204/archive>

◎ブログ：本に溺れたい グローバリゼーションの次は何か

<http://renqing.cocolog-nifty.com/bookjunkie/2009/01/post-841e.html>

◎森川辰夫さん

NPO 法人 農と人とくらし研究センター／資料情報

<http://www.rircl.jp/shiryo.htm>

◎日本農業新聞／書評

(2009/01/19 評者：日本農業新聞編集委員 山田優)

<http://yamazaki-i.org/>

(画面トップの「書評はこちらから」よりアクセス下さい)

◎小谷敏さん (大妻女子大学)

日本海新聞コラム「潮流」／「自給」の方へ（2009/01/31）

<http://blog.goo.ne.jp/binbin1956/e/c895f6619b30ba7725e264b4daa75219>

◎白崎一裕さん（(株) 共に生きるために）

月刊とちぎV ネットボランティア情報 vol.158／しみん文庫

<http://yamazaki-i.org/>

（画面トップの「書評はこちらから」よりアクセス下さい）

◎塩見直紀さん（半農半X 研究所、執筆者）

ブログ：半農半Xという生き方～スローレボリューションでいこう！

立国集。

<http://plaza.rakuten.co.jp/simpleandmission/diary/200812270000/>

◎お願い「<読者の声>の投稿規定・メールの書き方」

1、件名（見出し）を必ず書いて下さい。「はじめまして」は省略して、言いたいことを具体的に。

2、氏名・ハンドルネームは、文末ではなく始めのほうに。

3、1回1テーマ、10行位に。

4、ホームページを持っている人は、文末に URL を。

5、JIS X0208 規格外の文字（機種依存文字）のチェックを。

<http://www.chem.sci.osaka-u.ac.jp/networks/check/jisx0208.html>

インターネットで使えない丸数字や半角カタカナ、括弧入り略号などは文字化けの原因です。

次回 336 号の締め切りは 06 月 18 日、発行は 06 月 21 日の予定です。

<本誌記事の無断転載を禁じます>

隔週刊「農業文化マガジン『電子耕』」 第 335 号

最新号・バックナンバーの閲覧

<http://archive.mag2.com/0000014872/index.html>

<http://nazuna.com/tom/denshico.html>

購読申し込み／解除案内

<http://www.yamazaki-i.org>

2012.06.08（金）発行 山崎農業研究所&編集同人

<mailto:yamazaki@yamazaki-i.org>

***** ここまで『電子耕』*****